

（鯖街道熊川宿 説明看板：西山稲荷）

西山稲荷神社

歴史ある熊川宿という宿場町しもんちよの下ノ町の入口近くの山の斜面にある朱色の鳥居は、西山稲荷という神社への道を示しています。斜面のさらに上にあるその小さな神社は、農業と商業の神である稲荷を祀っています。

西山稲荷は何世紀にもわたって信仰されてきた場所です。そこは商業の成功を祈るのに人気の場所であり、運送業に携わる人々がよく訪れました。いつ神社が建てられたのかは正確にはわかっていませんが、この地域に伝わる口伝によると、1680 年から 1760 年の間のいつ頃かに建てられたとされています。神の御霊は、京都にある稲荷神社の総本宮である伏見稲荷大社から直接勧請されたと言われています。伏見稲荷大社と同じように、西山稲荷では、毎年秋に人々の祈りが書かれた木の棒を聖なる火で燃やす「お火焚きひたき」という儀式が行われます。この儀式は、熊川宿などの宿場町と昔の首都である京都のとの間に、食料やその他の商品の取引に加えて、宗教的な伝統や文化の交換を伴う繋がりがあったことを示しています。

西山稲荷を訪れる際は、倒木で道が塞がれる場合がありますので、悪天候時のハイキングは避けてください。